

東京都台東区立 柏葉中学校 × comuoon®

画期的なシステムで、
聴こえる喜びが
学ぶ楽しさに変わりました。



生徒の能力は、もっと引き出せる。

テレビ取材の一貫で、柏葉中学校でcomuoonを体験させていただけの機会がありました。英会話の授業で試したところ、生徒たちからは「よく聴こえる」と絶賛の嵐。聴き取りづらいと言われるk,s,tの発音までも聴き取れたことには、私も驚きました。これを使えば、生徒の能力をもっと引き出せると確信しましたね。その後、本格的に導入し、毎日の授業で活用しています。また、プールの授業のときには、耳が濡れてしまうために乾くまで補聴器を使えないという問題もありました。その点、スピーカータイプのcomuoonなら、プールの後でも補聴器なしで授業を受けることができます。しかし、課題はまだあります。現在、日本の高校以上で聴こえにくい生徒の受け入れ態勢が整っているのは、ろう学校のみ。

ろう学校に行けば本人にとって居心地は良いと思いますが、卒業していきなり社会で生きていくには難しい面もあります。だからこそ、ろう学校はもちろん、それ以外の学校でも、聴こえの問題と上手に付き合いながら社会に適應できる人間に育てていかなくてはなりません。comuoonが普及すれば、より多くの生徒に社会性を身につける機会が生まれると思います。



山口 淳 元教諭

東京都台東区立柏葉中学校 難聴学級 元教諭。33年間、難聴学級とろう学校を受け持ち、東京都の聴覚障害児教育を牽引。他校からも生徒を受け入れ、指導を行ってきた。

※取材内容は2015年3月時点のものです。

佐賀県立ろう学校 × comuoon®

comuoonは、
聴こえにくい方との距離を縮める
理想的な製品だと思います。



まず同じ立場に立つことが大切。

本校にはcomuoonが2台あり、ローテーションさせながら各クラスで使っています。導入後は、生徒たちが授業に対して積極的になりましたね。comuoonは音声を聴こえやすくするだけでなく、実は発話の練習にも使うことができます。聴こえにくい生徒は、自分の声が聴き取りにくいと、発音が苦手です。そこで本校では、マイクとスピーカー両方を生徒に向け、実際に自分の声を聴かせることで発話の練習に活かしています。また普段から手話を使っていますが、それだけで勉強を教えるのには限界があります。言葉のニュアンスまでは伝えにくいからです。そういう意味でも、comuoonは重宝される製品ですね。聴覚障害は目に見えるものではないので、一般的になかなか理解されにくいという問題があります。だからこそ、

私たち健聴者が同じ立場に立って努力をしていくことが大切です。しかし、健聴者の現状はどうでしょうか。手話はできないにしろ、聴こえにくい方に頼られることがあれば、何かしらの方法でコミュニケーションをとれる準備ができていると良いですね。幸い、comuoonという理想的な製品が登場したおかげで、今後はその距離がより縮まっていくのではないのでしょうか。



橋間 弘輝 教頭

佐賀県立ろう学校 教頭。生徒たちとの最適なコミュニケーションのかたちを模索しながら、日々教壇に立ち続けている。

※取材内容は2015年9月時点のものです。

在宅医療
やまぐちクリニック × comuoon®

聴こえないことに慣れる前に、
聴こえる喜びを感じてもらう。
それが一番大切です。



対話の必要性を感じてほしい。

在宅医療は、患者さんの暮らしに入り込んで医療行為を行うので、生活に根ざした対話が重要になります。そのため、聴こえにくい状況があるとどうしても弊害が出てしまう。例えばコミュニケーションを図る際、聴こえやすいように大声で話しかけると、怒っているような印象を与えてしまうかもしれませんよね。このような聴こえに関する課題を抱えていたところ、たまたまcomuoonの存在を知り、そのコンセプトに強く感銘を受けました。使用してみると、対話が円滑になり、お互いに穏やかに、話の内容も豊富なものになったのを感じました。聴覚というのは非常に特殊で、人は聴こえない状況になじむことができます。「話しても伝わらないし、何を言っているかわからないからいいや」と、一度生活からコミュ

ニケーションを排除してしまうと、マイナスのやりくりをしてしまい、どんどん話さなくなってしまうんです。しかし、本当にこわいのは逆にそうすることで対話における問題を感じない生活が確立されて、困らない状況ができあがってしまうことなんです。そういうマイナスの思考ができあがってしまう前にcomuoonのような機器を取り入れていくことが重要だと感じています。



山口 高秀 院長

在宅医療やまぐちクリニック 院長。「安心で安定した療養生活ができるだけ多くの場所で」という想いのもと、日々在宅医療に取り組んでいる。

※取材内容は2015年11月時点のものです。

大本山 圓福寺 × comuoon®

comuoonのおかげで、
お経やお説法がより多くの人に
届くようになりました。



柔軟な姿勢で聴こえに向き合う。

いままで檀家さまが聴こえにくい方の場合、お経やお説法を伝えることができず、自分の無力さを痛感することが何度もありました。誰よりも聴いてほしい方に声が届かないというのは、住職として一番悔しいことです。そんなとき、テレビ番組「夢の扉+」を拝見しました。画期的なcomuoonのコンセプトを知り、この製品ならそういった問題を解決できると確信し導入いたしました。当寺では、檀家さまとお話をしたり、お経やお説法をするときに使っています。聴こえにくい方との会話がスムーズになり、私自身も自分の声が届くようになって、住職冥利に尽きます。お寺離れと言われていま、私たちが檀家さまに寄り添うことが大切だと改めて感じました。そのひとつの方法としてcomuoonがあり、相手を思いや

る姿勢が全国に広まってほしいと考えています。一般的なお寺は最新機器を導入することに、難色を示されるケースが多いと思います。古くから伝わる考え方は大切ですが、時代に即した柔軟な姿勢も同じくらい大事。これからますます高齢者の人口は増えていきます。私は住職の立場から、comuoonを通して聴こえのバリアフリー化に貢献していきたいと強く思います。



小島 雅道 住職

愛知県岡崎市 浄土宗西山深草派 大本山 圓福寺 第85世住職。お寺にいち早くcomuoonを導入し、聴こえのバリアフリー化の推進に取り組んでいる。

※取材内容は2015年6月時点のものです。